

11回JR肥薩線検討会議 議事メモ

日時：令和7年3月31日（月） 13：30～14：00

場所：熊本県防災センター 2階 201会議室

【冒頭挨拶】

○岡野次長（国交省鉄道局）

昨年4月の第7回検討会議において、熊本県とJR九州との間で鉄道での復旧を目指す方向性について合意がなされて以降、今年度の検討事項をまとめたロードマップに従い、今年度末の最終合意に向けて、熊本県・JR九州・沿線自治体を中心とした関係者の間で調整が着実に進められてきたと承知しております。

前回の検討会議では、熊本県から観光利用と日常利用の増加に向けた具体施策をまとめた「アクションプラン」の最終案が示されました。JR九州からは、社内に持ち帰り検討するとのコメントがありましたので、本日はその報告をお願いします。

次に、復旧に際しての駅の配置について、JR九州から、運営を再開する駅が将来にわたって地域の皆さまにどのように利活用されるのかが重要であり、運営を再開する駅が示される必要があるとの意見がありましたので、本日は熊本県よりその検討結果について、報告をお願いします。

また、復旧や復旧後の運営のあり方についても、これまで熊本県とJR九州との間で調整を進めてきた結果が報告されると聞いております。

本日の会合においても、ご出席の皆様において活発な議論がなされることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。

○亀崎副知事（熊本県）

先月27日に開催しました前回の検討会議では、本県から「JR肥薩線復興アクションプラン（案）」を提示するとともに、「JR肥薩線の復旧における駅のか考え方」についてご説明しました。

その際、駅のか考え方に関して、JR九州様から「運営を再開する駅が将来にわたり地域の方々にどのように利活用されるか」という視点から、「運営を再開する具体的な駅が示される必要がある」とのご指摘をいただきました。このご意見を踏まえ、地元市町村とともに、八代駅と人吉駅の間にある13の駅について、「拠点性」と「にぎわい創出」の観点から整理・検討を進めて参りました。先週25日には、地元の再生協議会において、駅のか配置に関する地元としての案を取りまとめましたので、本日はその内容をお示しいたします。

また、JR九州様と県とで協議を重ねて参りました「基本合意書において最終合意までに深度化するとしていた内容」につきましても、整理ができました

ので、併せてご報告いたします。

今回取りまとめた内容は、地元として、ＪＲ肥薩線復旧の実現に向けて、真摯に取り組み、精一杯努力してきた成果であると考えております。本日の会議が今後の大きな一歩となるような実りある議論となりますことを心より願っております。

－ 熊本県から資料説明（資料１、資料２） －

【意見交換】

○松下総合企画本部長（ＪＲ九州）

熊本県様におかれましては、沿線の各自治体様及び当社と真摯にご議論いただき、前回当社が申し上げた課題に対して今回取りまとめていただいたことに感謝申し上げます。前回のＪＲ肥薩線検討会議で当社から、熊本県様よりお示しいただいた「ＪＲ肥薩線復興アクションプラン（案）」については持ち帰り社内で検討すること、また「ＪＲ肥薩線の復旧における駅の考え方」については「速やかに事務レベルでの議論を通じて、運営を再開する具体的な駅が示される必要があること」、「運営を再開する駅が将来にわたって地域の皆さまにどのように利活用されるかが重要と考えていること」を述べさせていただきました。加えて、「その他の基本合意書に記載の内容についても、具体化に向けて協議を進めさせていただきたい」ということも述べさせていただきました。

まず「ＪＲ肥薩線復興アクションプラン（案）」については、前回のＪＲ肥薩線検討会議以降、社内でしっかり内容を検討させていただき、その内容について承知したところです。

次に駅の配置については、前回のＪＲ肥薩線検討会議後に事務レベルで示していただきましたが、本日正式に熊本県様から「駅の配置について（案）」が示され、運営を再開する具体的な駅と、それらの駅が将来どのように地域の皆さまに利活用されるかについてお示しいただきました。当社としましては、この内容について承知したところです。

最後にその他の整理事項として、基本合意書第１項に記載されている「上下分離方式」の具体的な内容と、第４項に記載されている「復旧や運営のあり方、数値目標の設定・管理等」の具体的な内容については、先ほど熊本県様からご説明がありましたとおり、熊本県様と当社の間で整理いたしました。

以上のことから、当社としましては、昨年４月に取り交わしました基本合意書の第１項から第４項の内容について深度化できたと判断し、鉄道復旧について最終合意したいと思います。

当社としましても今後の肥薩線の協議につきましては最大限努力いたしますので、熊本県様におかれましても、今回最終合意する内容を着実に実施して

いただくこと、加えて、残る肥薩線（人吉・吉松間）の協議についても、引き続きよろしくお願いいたします。

○亀崎副知事（熊本県）

ただ今、ＪＲ九州様から、鉄道復旧について最終合意したいとのご判断をいただきました。本当にありがとうございます。

この段階に至るまでの３年間、ＪＲ九州様におかれては、肥薩線復旧に向けた議論に真剣に向き合っていただくとともに、地元の思いを理解していただき、心から感謝申し上げます。多くの皆様から「肥薩線が復旧してよかった」と言っていたるように、これからも全力で取り組んで参ります。

○森田局長（九州地方整備局）

熊本県様とＪＲ九州様との間で最終合意できることとなりました。資料２の３項目、事業間連携について、しっかりとＪＲ九州様とともに取り組んでいく中で、早期再開に向けて協力させていただきたいと考えております。

○原田局長（九州運輸局）

本日、熊本県様とＪＲ九州様との間で、鉄道での復旧による最終合意の道筋が見えました。令和４年３月の第１回検討会議からここまで、関係者の皆様の大変なご努力に改めて敬意を表したいと思っております。

先般示されたアクションプランは、球磨川の自然やＳＬ人吉を活用した観光利用の施策、駅舎や二次交通を整備して日常利用にも取り組む素晴らしい内容になっている。これからアクションプランを実現するにあたり、この費用は、熊本県をはじめとした関係者による負担の仕組みと、国の補助も活用しながら実施していただくことになります。

地域の足として肥薩線が愛される路線になることはもちろん、人吉・球磨地域に訪れる全国の皆様から「あの時に支援して良かった」と思ってもらえるようなまちづくりにしていくことが重要です。今回の最終合意を重く受け止め、尊重するとともに、復旧まで時間は掛かりますが、アクションプランの実現に向けて、関係者の皆様と責任を持って支援して参ります。

○亀崎副知事（熊本県）

九州地方整備局の森田局長様、そして、九州運輸局の原田局長様から、大変心強い、有難いお言葉を賜りました。誠にありがとうございます。第１回の検討会議からおよそ３年、国土交通省の皆様方には、常に力強いご支援、絶大なご支援を賜り、本日この日を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

なかでも大きな課題でありました復旧費用については、九州地方整備局様

により、事業間連携というこれまでにない形での特段のご支援をいただきました。

また、本省鉄道局様、そして九州運輸局様におかれましては、鉄道の持続可能性を見出す具体策を取りまとめるに当たり、常に伴走型の温かいご助言、ご支援、そして、新たな再構築支援制度による補助など、様々な面で我々をしつかりと支えていただきました。

そして、ＪＲ九州様には、厳しい状況にある赤字ローカル線の復旧という課題に対し、真摯にかつ前向きにご対応いただきました。

このような多くのご支援があって、本日の最終合意に至ることができました。改めて深く感謝申し上げます。県としましては、今後とも早期復旧と地域再生に向けて関係者一丸となって全力で取り組んでいく覚悟ですので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

○岡野次長（国交省鉄道局）

本日は、有意義な意見交換ありがとうございました。

今回の会議では、熊本県から具体的な駅の配置について、再生協議会で取りまとめた結果をお示しいただきました。ＪＲ九州からは、前回の会議で社内へ持ち帰り検討するとしていたアクションプラン及び駅の配置について、内容承知したとのコメントがありました。また、熊本県・ＪＲ九州との間で調整してきた復旧と復旧後の運営の在り方についても、整理ができたとのコメントが双方よりあり、これを受け、ＪＲ九州からは鉄道復旧について最終合意したいとの発言がございました。

令和２年７月の豪雨被害から４年８ヶ月、また検討会議が立ち上がってから約３年、熊本県とＪＲ九州との間で納得する形で最終合意ができたことは大変意義深いことであり、熊本県が中心となって策定した復興方針やアクションプラン、また積極的な支援や機運醸成策も含め、関係者のこれまでの長期間にわたる多大なご努力に深く敬意を表します。

整理いただいたアクションプランや最終合意書に基づいて、熊本県、ＪＲ九州、地元自治体等の関係者が一体となって、肥薩線の復旧と沿線地域の発展に向けて、必要な取組みを着実に進めていただくようお願いするとともに、肥薩線が鉄道事業再構築のモデルとなることを祈念しております。

国土交通省としても、九州地方整備局、九州運輸局と連携して今後もしっかりサポートして参ります。ありがとうございました。

（以上）